

令和4年度（2022年度）
第1回 沖縄歯科衛生士学校 学校関係者評価委員会

日時：令和4年12月15日（月）

20:00～21:30

場所：沖縄歯科衛生士学校

【出席者】

氏名	所属	種別
上江洲 朝男	琉球大学教職センター 教授	教育・学術機関
仲程尚子	沖縄県歯科衛生士会 監事	業界団体代表
武富良悟	株式会社 沖縄歯科器材 専務	企業
平敷幸浩	沖縄北谷自然海塩株式会社 専務取締役	企業
松園あかね	NPO 法人 キャリエイト 理事	教育・学術機関
米須敦子	沖縄歯科衛生士学校 校長	オブザーバー
古堅信	沖縄歯科衛生士学校 副校長	オブザーバー
中地昭雄	沖縄歯科衛生士学校 教務部長	オブザーバー
志喜屋やよい	沖縄歯科衛生士学校 教務副主任	オブザーバー
眞玉橋由和	沖縄歯科衛生士学校 専任教員	オブザーバー

次第

司会進行：中地教務部長

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 出席者紹介
4. 報告事項
 - (1) 令和3年度（第32期生）卒業生の状況
5. 協議事項
 - (1) 令和4年度（前期）学校自己評価結果について
 - ① 学校教育目標・重点努力目標について
 - ② 評価項目I～Xについて
6. 次回開催について
7. 閉会

第1回 学校関係者評価委員会報告

I. 重点目標について

- ・学校教育目標、重点努力目標は毎年見直しをする方が良いという意見が出ている事から、次年度に向けて現在検討中。

II. 各評価項目について

1. 教育理念、目的、人材育成像

- ・前回の助言により「教育理念」を常に、学生も認識できるよう、各教室と講堂に額を掲げた。
- ・保護者に対する周知が不十分であり、SNS を活用するなど今後工夫を要する。

2. 学校運営

- ・教育活動等の状況について HP 活用が不十分と思われる為、HP の改善と活用に取組む必要がある。
- ・学生の出席状況等のシステム化が不十分である。今後は、出席状況等の学生管理システムの構築に努める必要がある。

3. 教育活動

(目標の設定等)

特に問題なし

(教育方法・評価等)

- ・学生による授業評価を各教科の講義、実習終了後に実施。授業評価の結果を個別に講師へ開示した。但し、外部関係者（講師）からの評価は未実施であり今後検討する。

(資格試験) (教職員)

- ・中長期間を見据え次世代の専任教員育成（歯科衛生士教育認定）が必要。人材確保のみでなく、多忙な職員業務の改善に向けての問題点の抽出を行う必要がある。

4. 学修成果

- ・卒業後のキャリア形成への効果について、充分に把握出来ておらず、卒業後のフォローアップ研修等を歯科衛生士会と連携し、キャリア形成の効果を把握していく。

5. 学生支援

- ・学生支援（就職・学生相談・健康管理等）は、担任を通して学生の状況を把握し、教務課全体で共有している。
- ・編入学等の規定について今後検討していく必要がある。

6. 教育環境

- ・県の補助事業による備品購入や防犯カメラの設置等を行った。
- ・建物の老朽化や高額機器の経年劣化に伴い、減価償却積立の予算化の検討が必要。

7. 学生募集

- ・次年度（2023 年度）入学案内パンフレットに男子学生を起用し、男子学生入学についての周知を図っている。

8. 財務

特に問題なし

- ・校舎の老朽化や機器の経年劣化等による設備整備費支出の増加、今後の 18 歳人口の減少における定員の充足率の向上と維持に向けての努力を要する。

9. 法令等の遵守

特に問題なし

- ・学生、講師等に対し、SNS 等での個人情報の対策に関する注意喚起を行う。

10. 社会貢献・地域貢献

- ・2022 年度前期はコロナ禍により外部のボランティア活動が困難であった。

その他所見

●昨年の第 32 期卒業生状況(2021 年度卒)、卒後アンケート結果について

- ・グループ学習の必要性については、将来的に共働というか、ライバルではなく学び合う仲間であり、就職後は支えあって教える事の意味を十分に理解させることも大事
- ・求職について、職場体験や事前情報（地域の求人状況等）を学生に理解させ、その上で学生がどう感じ、どうするかを考えさせが必要だと感じる。

●令和 4 (2022) 年度（前期）学校自己評価結果について

- ・歯科医師会の先生方と教務がしっかりと協議されて、いいと思います。
- ・課題を、中長期で（コロナ状況下が落ち着き）見越して考えた場合、即対応が必要な事柄と、時間を要するものと仕分けをし、また、アンケート内で不適とした点は具体的な記述を求めた方が、今後の改善に向けて具体化しやすい。